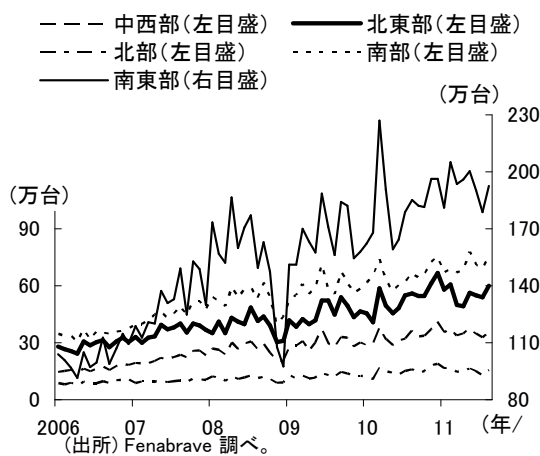


広がるブラジルの成長エリア

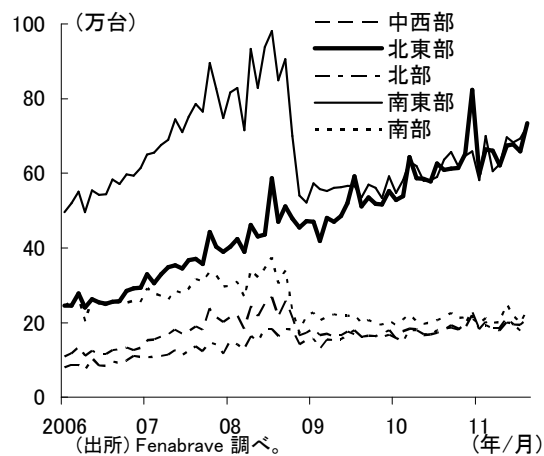
～ 地方圏の経済成長始動の兆し ～

- (1) これまでブラジルの経済成長は都市圏、すなわちサンパウロ州とリオデジャネイロ州を中心とする南東部、次いでパラナ州やサンタカタリナ州の南部が牽引。しかし地方圏経済に躍進の兆し。消費動向をみると、地方圏の所得水準は依然低いため高額品でなく、価格の安い普及品で消費拡大。自動車と二輪車販売が端的な事象（図表1、2）。
- (2) 自動車販売の中心は今日でも南東部と南部。それに対して、二輪車販売では、北東部が急速に台頭。リーマン・ショック後、南東部と南部では二輪車販売が失速。相前後して、両エリアでは自動車販売台数が一段と増加。ブラジルで最も所得水準が高い両エリアでは需要が二輪車から自動車にシフト。一方、地方圏では二輪車が手に入る所得水準へ上昇。
- (3) 雇用情勢をみても、このところ地方圏、とりわけ北東部の改善が際立つ展開。すなわち、失業者数をみると、サンパウロやリオデジャネイロでは、本年に入り減少から増加に転換（図表3）。それに対して北東部に位置するバイーヤ州のサルバドールやペルナンブーコ州のレシフェでは失業者数の減少傾向が継続。
- (4) 加えて、労働力人口に占める雇用者数のシェアをみると、本年に入り、サルバドールやレシフェの上昇がとりわけ顕著（図表4）。人口に占める労働力人口のシェアもほぼ同様。経済が停滞し、労働需要が不足する結果、生じる余剰労働力が従来、地方圏の深刻な問題。しかし、インフラ整備や外資流入に伴って地方経済の活性化が進展するなか、地方圏でも都市圏と同様、労働力不足が視野に入るほど労働需要が増加。中印をはじめ多くの新興国と同じくブラジルでも全土に亘る経済成長が始動。

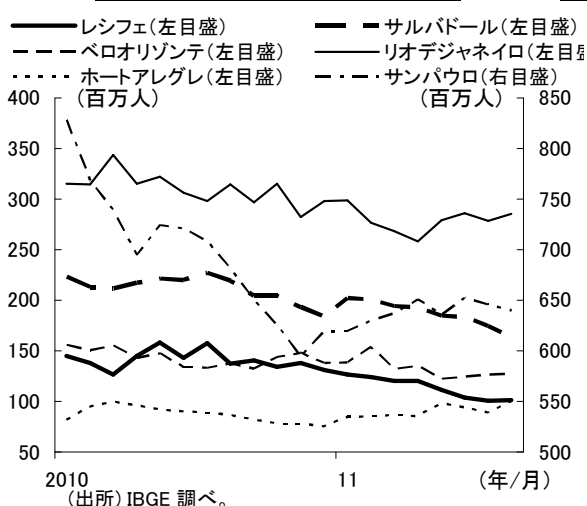
（図表1）地域別自動車販売台数（季調済年率）



（図表2）地域別二輪車販売台数（季調済年率）



（図表3）地域別失業者数（季調済）



（図表4）地域別雇用者比率（対労働力人口、季調済）

